城と史蹟を歩く会　平成１５年前半のスケジュール

第１９回　２月１９日（水曜日）　亀戸天神と両国周辺を歩く
往路＝八幡宿８時１０分、千葉２９分着、４８分発（②番線総武各駅乗車）亀戸９時２５分着
移動＝亀戸（総武線）両国
復路＝両国１６時３０分ころ乗車、千葉経由、八幡宿１８時３０分ころ着
主要コース＝亀戸天満宮（梅見）－両国国技館－横網町公園－旧安田庭園（昼食）－両国橋－両国回向院－吉良上野介屋敷跡
雨天予備日＝２１日（金曜日）

第２０回　３月１５日（土曜日）　小山城と古河城を歩く（ホリデーパス＝雨天中止のため再企画）
往路＝八幡宿７時０７分（京葉快速前の方乗車）東京５１分着（乗換え時間少ない、急ぐ）上野８時３６分発（⑬番線東北本線先頭車両乗車）小山９時５０分着
移動＝小山１２時３７分（快速１駅１４分）古河
復路＝古河１６時３０分ころ乗車、上野、東京経由、八幡宿１９時ころ着
主要コース＝日光街道小山宿－脇本陣－須賀神社－小山評定跡－小山城－古河宿－家老屋敷－諏訪郭－古河城址－正定寺
雨天予備日＝３月１６日（日曜日）

第２１回　４月１４日（月曜日）　高遠城と諏訪高島城、信濃路の城と桜バスツアー（特別企画）
往路＝五井駅東口５時４５分、八幡公民館６時００分、蘇我駅西口１５分（１５分前集合）－湾岸道路、中央自動車道、諏訪インター
復路＝往路を逆走。出発地２０時３０分ころ着
見学地＝高遠城（日本一の花見）、諏訪高島城（諏訪の浮城）
参加費＝６，３００円（バス、参加費、保険、おぎのや釜飯、高遠城、高島城入場料含む）
受付開始＝２月１９日。定員（４５名＝補助席使用しない）次第打切り、申込時入金。取消しは１か月前までに。以降は返金できませんので友だちに権利を譲ってください。
申込みは八幡宿＝鷲津寛子４１－５１０１、五井＝高沢恒子２１－４０５３

第２２回　５月１０日（土曜日）　鎌倉大仏と切通し旧道を歩く（ホリデーパス利用）
往路＝八幡宿７時０１分乗車（先頭１、２両目）東京５７分発（地下①番線）鎌倉８時５２分着（江の電側改札前集合）（江の電）稲村が崎９時３０分ころ着
復路＝火の見下（バス）鎌倉、鎌倉１６時４５分乗車（最後尾乗車）八幡宿１８時４１分着
主要コース＝稲村が崎、極楽寺、極楽寺切通し、長谷寺（昼食）、鎌倉大仏、大仏坂切通し
雨天予備日＝５月１７日（土曜日）

第２３回　６月５日（木曜日）　鶴舞城と池和田城を歩く
往路＝八幡宿９時１４分、五井１７分着、２２分（小湊線）牛久４９分着、５３分（バス１５分）鶴舞公民館前。
復路＝鶴舞１６時１４分または１７時４７分（小湊線）五井１６時４９分、八幡宿１７時ころ
主要コース＝藩校克明館跡、高台、本丸水濠、鶴舞藩庁跡、鶴舞公民館（昼食）、鶴舞城下、池和田城、光明寺、鶴舞駅
雨天予備日＝６月１１日（火曜日）

注意＊詳細は予告編を参照ください。下見、天候などにより一部コース内容を変更することがあります。

城と史蹟を歩く会　　市原市八幡北町２－１２－１２－５０１　郵便番号２９０－００６９
（ご案内と問い合わせ）　山岸弘明　電話０４３６－４２－２２３７

１）趣旨＝城と史蹟を楽しみながら歩くこと。目でみるよりはむしろ足で見るものだからです。
２）行動範囲＝東京都内、千葉県内など交通費片道１０００円圏内、ホリデーパス圏内とします。
３）定例会＝毎月１回程度。平日を中心に土、日、祭日も。雨天中止は連絡網で予備日に延期します。
４）資格＝通常程度歩けること。会員は原則として毎回参加、欠席のとき前回受付時申出またはＴＥＬ連絡。無断欠席はやめましょう。
５）会員の種類＝会員、土日会員。会員にならなくても１回だけの参加ができます。
６）入会金＝なし。参加費＝毎回５００円＋１００円（アルバムカラーコピー代）。交通費、入場料などは個人負担、弁当持参。
７）保険はありません。会の運営はボランティアで行なわれています。万一の責任は負えませんので、お互いに交通ルールなどに注意しましょう。
８）会員数＝平成１４年１１月現在６０名、毎回４０名程度参加。
（特別企画は本文を参照ください）

以上

城と史蹟を歩く会　平成１５年２月１９日（水曜日＝予備日２１日）
第１９回　亀戸天神と両国周辺を歩く　予告編
往路＝八幡宿８時０９分、千葉２４分、３７分発（②番線総武各駅前の方乗車）亀戸９時２５分着（北口改札前集合＝開会式） 移動＝大平２丁目（都バス）石原１丁目 復路＝両国１６時３０分ころ乗車、千葉経由、八幡宿１８時３０分ころ着

主なコースと見所　往路乗車券＝八幡宿（７４０円）亀戸

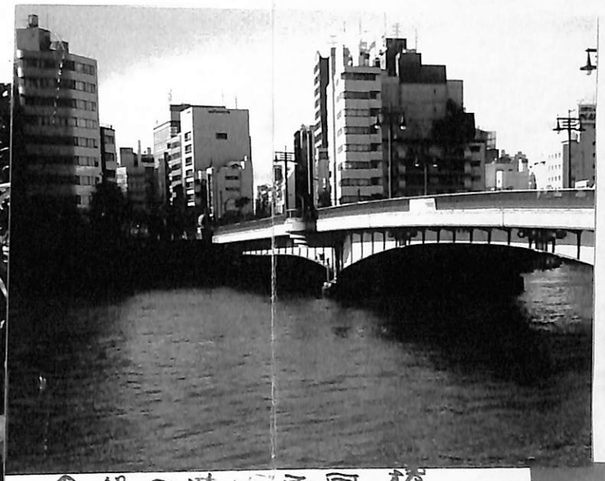
①亀戸十三間通り（明治通り）＝亀戸駅前の大通り。左折した天神前までの道両側にみやげもの、食堂街が並ぶ。亀戸天神の門前町だが今回は素通り。
②普門院＝亀戸７福神の１つ毘沙門天。伊藤左千夫、横綱秀の山が眠る。一隅に15世紀応永28年の石灯籠。市原光善寺廃寺応永灯籠と比較する。
③亀戸天神＝九州太宰府天満宮を模して創建、江戸時代、東都第一の名所観光地に。太鼓橋回りの藤は安藤広重の名作「名所江戸百景」の舞台だが梅名所としても有名。撫牛、塩原多助の石灯籠、臥竜石、中江兆民の碑も。
④明治諸工業創業の地＝小名木川、竪川沿いにセメント、紡績、肥料、製糖工場などはじまる。日清紡績創業の地は戦後の草野球場をへていま公団団地。
⑤亀戸銭座跡＝江戸中期、寛永通宝銅銭、真鍮４文銭を鋳造。標柱が残る。
⑥横（北）十間川と天神橋＝江戸はじめ万治２年本所奉行が開削。ＪＲ線の反対側を流れる竪川に対する横川。川幅の10間が川名に。

この間バス移動（２００円）

⑦徳之山稲荷神社＝江戸はじめ本所、深川の開発奉行徳山五兵衛の屋敷跡。
⑧横網町公園＝関東大震災最大の悲劇といわれる陸軍被服廠跡。大正12年９月１日、この地で４万人の人たちが焼死。復興記念館、慰霊塔などがある。
⑨旧安田庭園（昼食＝無料）＝笠間本庄藩下屋敷跡。江戸名園の１つとされた池泉回遊式庭園を保存。都会の喧騒を忘れさせる。
⑩江戸東京博物館（外観のみ）＝高床式の倉をイメージした変わった建物。都立の歴史博物館で、お江戸日本橋や芝居小屋、棟割長屋などを再現している。
⑪両国国技館＝国技相撲の殿堂。年に３回、１、５、７月に本場所が開かれる。時間あれば館内の相撲博物館（無料）を見学。
⑫両国駅＝明治23年開業。かつての房総方面始発駅。駅舎は昭和５年建造。
⑬相撲部屋＝両国は相撲の町。陸奥、時津風、大島、立波部屋前を通る。
⑭東詰広小路跡＝江戸屈指の盛り場。芝居小屋、見せ物小屋、屋台など。かつての茶屋、料理屋街に老舗山くじら屋健在。周辺にちゃんこ鍋も多い。
⑮赤穂浪士大高源吾句碑＝源吾は宝井其角の弟子で俳諧に通ずる。「日の恩やたちまちくだく厚氷」。その日其角に「あした待たれる宝船」を告げる。
⑯墨田川と両国橋＝橋名どおり江戸、武蔵を分けたが明暦大火後両国も江戸に。両国花火は享保から。「タマヤ、カギヤ」のかけ声が。
⑰回向院＝明暦大火の犠牲者供養のため創建。ねずみ小僧、山東京伝の墓も。赤穂浪士の討入りで立入りを拒否、江戸勧進相撲の本拠としても有名。
⑱吉良上野介邸跡＝元禄15年12月14日、１年９か月の苦難をへた赤穂浪士47士が討ち入りめでたく本懐を遂げる。屋敷模様と討ち入りを詳しく解説。
⑲勝海舟生誕の地＝幕末、幕府を代表した英傑ここに生まれる。

↑亀戸天神

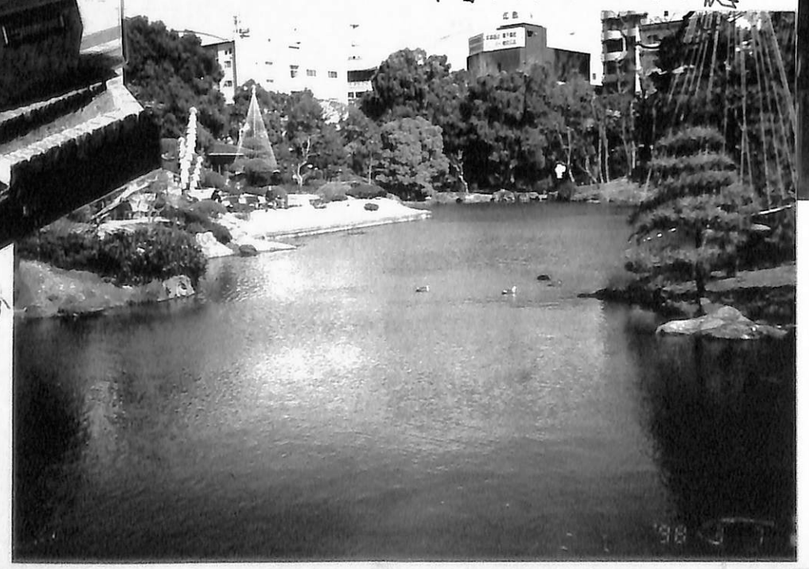
↑普門院応永灯籠


↑隅田川と両国橋

↑江戸東京博物館

←両国駅

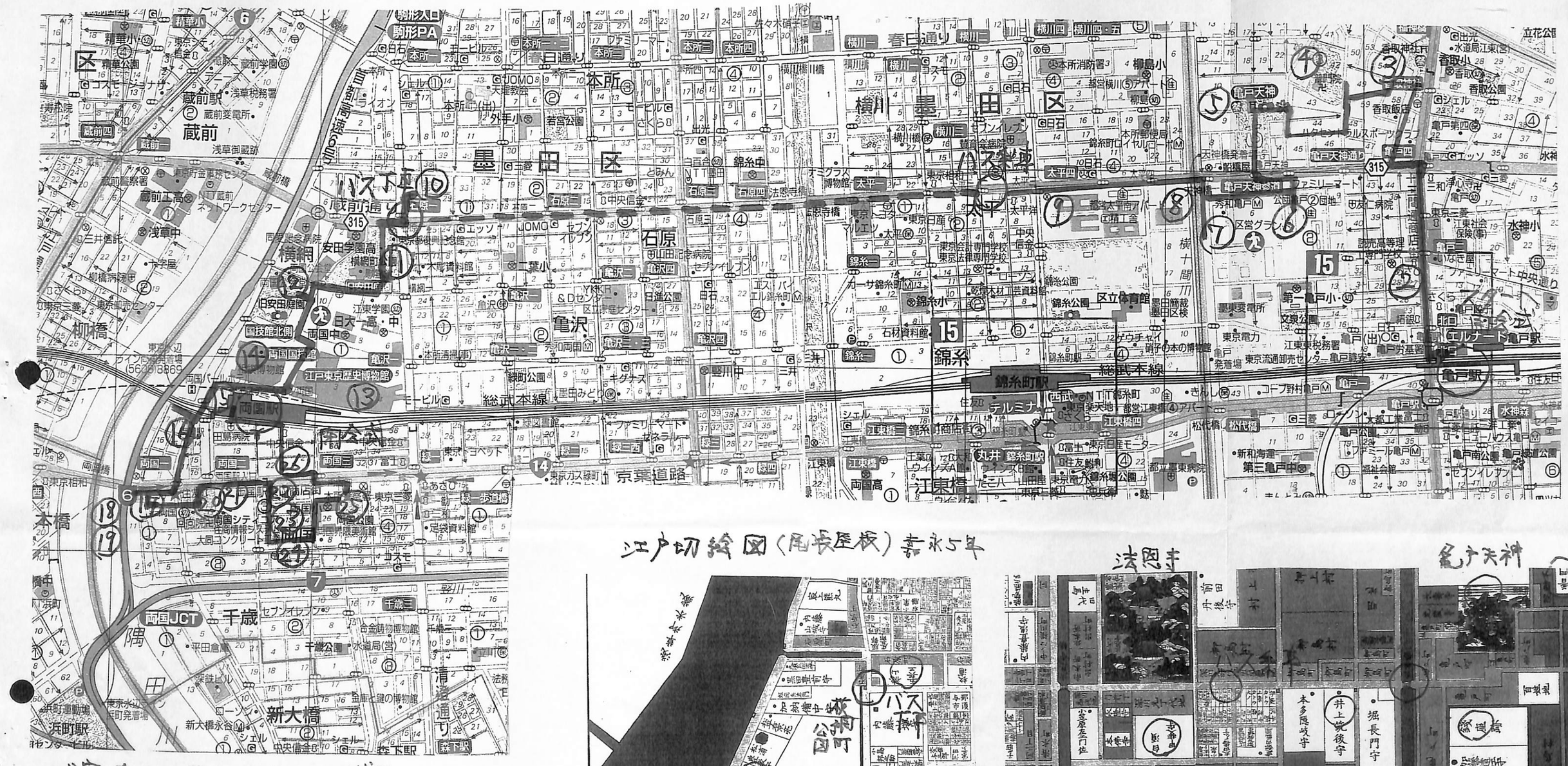
↑亀戸銭座跡


→旧安田庭園

↑↓両国国技館

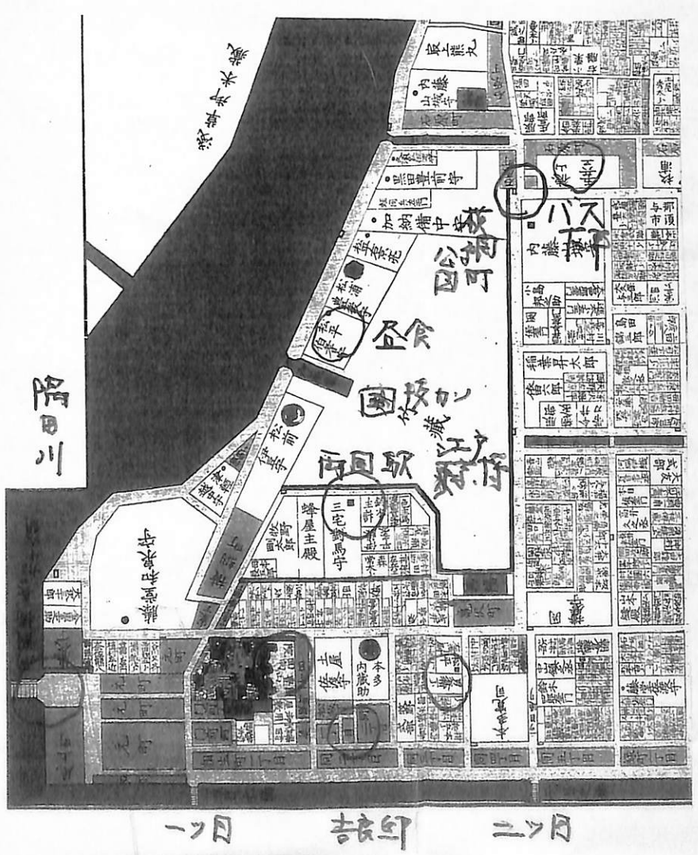
←↑吉良邸

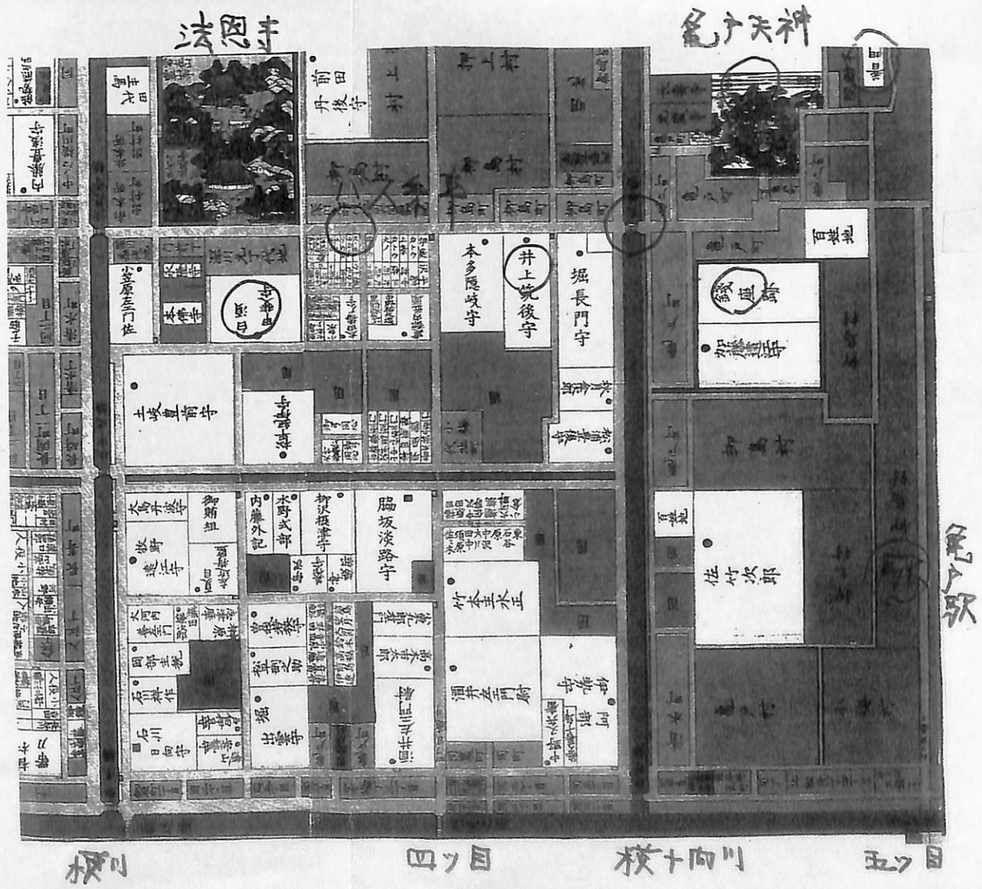
当日、４月１４日の「高遠城と高島城、信濃路の城と桜バスツアー」申込み受付を行います。



ご案内コース ー ー ー バス

亀戸天神





城と史蹟を歩く会第１９回　「亀戸天神と両国周辺を歩く」ご案内資料

＜日時＞	平成１５年２月１９日（水曜日＝予備日は２１日）
＜主要行程＞	八幡宿８時０９分（各駅）千葉２４分着、３７分発（②番線総武鈍行乗車）亀戸９時２４分着、北口改札前集合 ― 亀戸天神 ― 亀戸銭座跡 ― 横十間川と天神橋 ― 大平２丁目（バス移動）石原１丁目 ― 横網町公園 ― 旧安田庭園（昼食） ― 両国国技館 ― 両国橋 ― 回向院 ― 吉良邸跡 ― 勝海舟生誕の地 ― 両国駅１６時３０分ころ乗車、千葉経由、八幡宿１８時ころ着

山岸弘明

1）　**はじめに（地名の起こり）**

①亀戸＝亀の井。亀の島（後出）の変化
②錦糸町＝錦糸堀。南割下水の東側総称
③両国＝両国橋。武蔵、下総両国にかかる橋
④大平＝維新新政の天下泰平を祈願
⑤石原＝古利根川の洲礁。砂利や石の多い川原
⑥横網＝漁業に関係すると考えられるが不詳
⑦本所＝牛島本所。地頭方に対する荘園領主の支配地
⑧松坂町＝めでたい松を選ぶ

2）　**亀戸十三間通り**

①江戸郊外柳島村たんぼ地、旧五ツ目通り。通り名は本所地域を東西に走る堀割の竪川を両国橋から５つ目の大路。１ツ目の橋、２ツ目の橋……と都市計画で碁盤目のように整備されていた。
②現在は明治通り。駅前周辺は道幅が広く十三間ある。左折した蔵前橋通りの天神あたりまでみやげ物屋、食堂が立ち並ぶ亀戸天神門前町。今回は素通り。
③船橋屋＝江戸時代からの老舗。はじめ豆腐屋で文化２年から名物葛餅を売る。

3）　**香取神社**

①７世紀創建と伝わる古社。社伝では藤原鎌足が立ち寄り、太刀を納めて香取大神を勧請したという。江戸時代東都古跡十二社の一つに数えられたが、関東大震災、昭和戦災で焼失、平成元年再建。
②亀の島旧跡＝昔、当地一帯は海の浮かぶ亀の島で、亀村ができ、亀が井と混じり、亀井戸となり亀戸村に変わった。由来を記した亀の島の碑などは戦災で失った。

4）　**普門院**

①中世石浜城（荒川区＝遺構なし）に創建。元和２年現在地へ。亀戸七福神の一つ、毘沙門天を祀る。
②応永石灯籠＝室町前期の石灯籠。火袋に応永廿八年銘、装飾のないシンプルな円筒形。
③札所道標＝江戸中期宝暦９年、四国八十八か所四十番、江戸三十三か所三十番を記す。宝きょう印塔＝天明８年、庚申塔＝寛文８年の三猿庚申塔など石塔も多い。
③伊藤左千夫の墓＝明治歌壇の重鎮。アララギを主宰し近代短歌の興隆に尽くした。晩年は大島６丁目に居住、大正２年没、50才。

5）　**亀戸天神**

①江戸はじめ創建、寛文３年現在地へ。九州太宰府天満宮を模す。かつて東都第１の名所戸されたが、戦災焼失。戦後の再建。
②心字池一帯は昔ながらの梅と藤の名所。真赤な太鼓橋を渡って梅のお花見を楽しむ。境内の藤を描いた安藤広重の「江戸名所百景」は名作。
③撫牛＝青銅製の臥牛像。悪いところを撫ぜると直る。中江兆民の碑、塩原多助の石灯籠など。
④江戸時代は天神裏に梅名所の梅屋敷や岡場所があり、観光、歓楽街を構成していた。

6）　**明治近代工業の地**

①明治維新後竪川、小名木川周辺の大名、旗本屋敷が近代工業地帯に。セメント、紡績、製材、肥料などの工場が立てられ、のち重工業、重化学工業へと進む。
②日清紡績創業の碑＝日清紡績ここに始まる。戦後、巨人青田、川上らの活躍で空前の野球ブームを迎え跡地は草野球場15面、軟式野球のメッカに。昭和42年高層マンションの住宅公団団地完成。

7）　**亀戸銭座跡**

①江戸期の鋳銭場。寛永通宝の銅銭、真鍮銭波銭（裏に波模様＝永）、背文銭（裏に文＝ビタ）を作った。由来を記した標柱に銭座で働く職人たち。公団建築現場で多くの寛永通宝が出土した。
②江戸時代の通貨は複雑。金建て（関東）、銀建て（関西）、銭貨がそれぞれに流通した。
金１両＝４分、１分＝４朱。銀１貫＝１,０００匁。銭（ビタ、永）１貫＝１,０００文。藩札
おおむねの換算＝金１両＝銀50匁＝銭ビタ４貫文＝銭永１貫文
金銀相場は変動し３貨の交換は面倒であった。庶民は銭貨だが鉄のビタ銭（裏が無地）１文、波銭が４文、天保通宝は１００文に作られたが半値以下に下落するなど銭貨も変動した。

8）　**横十間川と天神橋**

①隅田川と中川を結ぶ竪川に対する横川。江戸はじめの万治年間開削。竪川と小名木川と交差して木場に通じたので木材業者の重要水路でもあった。川幅が名前に。
②川と橋が朱引きで江戸の最先端、町奉行や本所奉行の守備範囲もここまで。現在も江東区と墨田区の境界になっている。

9）　**４つ目通り、精工舎跡**

①下総高岡井上藩下屋敷跡＝市原の犬成村、小田部村など14か村を領有。分家２旗本家も市原を知行。明治維新後工業地帯となり、明治26年石原町から服部時計店、精工舎が移転。工事中。
②４つ目通りをまっすぐ進むと４つ目橋。周辺は小身旗本、御家人邸がならび裏側はタンボだった。
③錦糸町駅＝明治22年本所駅として創業。錦糸公園＝旧陸軍糧秣厰倉庫跡。震災の復興計画で公園に。

バス移動＝大平２丁目（５つめ８分）石原１丁目　およそ８分間隔＝２００円

１０）徳之山稲荷

①旗本２千７百石徳山五兵衛家代々の屋敷跡。３千坪。屋敷稲荷に初代五兵衛重政を合祀。
②万治３年、明暦大火後の江戸市街拡張のため本所築地奉行を命ぜられ、小名木川、竪川、横川などの整備、開削、湿地埋め立てを行なう。本所奉行は本所を統括、享保年間まで続いた。
③かたわらに日本左衛門の旧跡。江戸中期の大盗賊、歌舞伎「白波５人男」日本駄衛門のモデル。捕縛、打首して供養塔を建立。いま首洗井戸だけ。
④隅田川側は江戸後期の久留里黒田藩３万石、一宮加納１万石下屋敷跡。ともに市原を所領とした。
⑤その先川沿いに旧跡の川船極印所跡、百本杭跡、今回は省略。

１１）横網町公園

①幕府御米蔵跡。隅田川を挟んだ対岸蔵前とここ、ＪＲ両国駅、国技館、東京江戸博物館周辺を含む一帯に幕府直轄領の年貢米倉庫。市原の天領からも五井や八幡から津出し回送された。
②明治維新後陸軍省用地で被服本廠となる。東京都に売却直、空き地であったが大正12年９月関東大震災。非難した人たちの家財道具に炎が襲い４万人ともいわれる焼死者を出す。
③東京都慰霊堂＝昭和５年震災犠牲者を祀り、昭和26年戦災の一般人犠牲者を合祀。
④復興記念館＝震災遺物などを展示。屋外展示場に明治屋の国産第１号車残骸も。

１２）旧安田庭園（無料＝昼食）

①５代将軍綱吉の生母桂昌院お玉（３代家光の側室＝八百屋の娘から従一位、日本一出世した女性）の弟で笠間５万石本庄宗資の作った池泉回遊式庭園。小規模だが名園とされた。
②最幕末期の岡山池田藩下屋敷をへて、明治維新後４代財閥の１つ安田善次郎邸に。大正11年東京市に寄贈、現在は墨田区営。
③かつて墨田川の水を引いた潮入り池、いまは地下に水槽を作り人工的に干満を作る。
④昼食のお勧めは池前ベンチ。池越しにみる出島州浜、蓬莱中島、太鼓橋など一望。園内最大の景観。
⑤昼食後全員で右回り一周。磯渡り、水門、太鼓橋、枯滝三尊、駒止稲荷、州浜護岸石組などを楽しむ。石灯籠などの石像物も多い。

１３）江戸東京博物館（外観のみ）

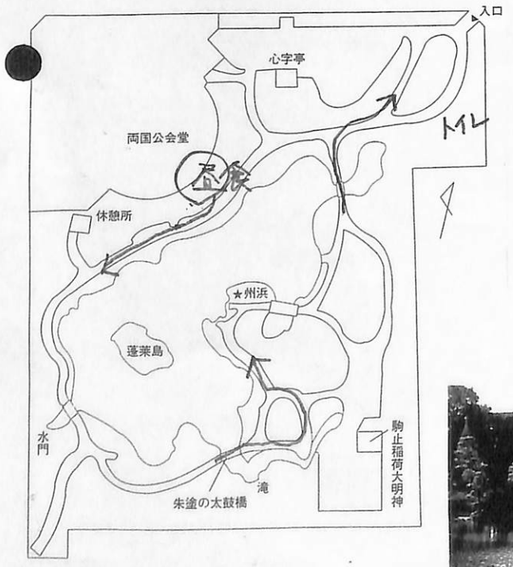
高床式をイメージした近代建築。何と贅沢な造り。江戸から東京への歴史を紹介。お江戸日本橋や大名屋敷、町人街などを再現。たっぷり楽しめる。またの機会にどうぞ。

１４）両国国技館（外観のみ）、相撲博物館（無料＝進行時間により省略することがあります）

①国技相撲の殿堂。昭和60年蔵前から移転、開館。毎年１、５、９月に本場所が開かれる。若貴時代の相撲ブームも一息。いまは武蔵丸、朝青龍ら外人相撲レスラーの活躍がめだつ。
②相撲博物館＝江戸相撲から現在までの相撲資料を常設展示。錦絵、古番付、化粧まわし、思い出の名勝負など相撲ファン必見。

１５）両国駅

①　明治23年、両国橋停車場として創業。かつて房総方面への始発駅だった。
②　駅舎は昭和５年建築。当時の雰囲気を伝える



フンポイトアドバイス
出島の州浜から眺めると、手前の雪見燈籠と対岸の燈籠、中島の護岸石組がよく観賞できる。クスノキの大樹の下で、いつまでも佇んでいたい気持ちになる。

◆みどころとみごろ
出島の州浜、中島や池畔の護岸石組

→江戸東京博物館

旧安田庭園←↓

↓国技館

１６）相撲部屋

①　両国は相撲の町。途中、相撲部屋を覗く。運がよければ人気力士に出会えるかも。
②　陸奥（みちのく）部屋＝昭和49年星甲創設。現親方は元大関霧島。
時津風部屋＝戦中16年双葉山創設。鏡里、大内山、豊山、蔵間ら。
大島部屋＝55年元大関旭国創設。旭富士、旭道山ら。現役は旭しゅう山
立浪部屋＝大正４年。かつて双葉山、羽黒山、名寄岩、若羽黒、双羽黒出した名門。

１７）両国橋東詰広小路跡

①　江戸屈指の盛り場。広小路に見せ物小屋、街頭芸、物売り、屋台、寄席、料理屋並ぶ。
②　山くじら（いのしし）の老舗ももんじやに往時の面影。周辺にちゃんこ店多い。
③　岡田商会事務所。昭和初期のアールデコ様式木造２階。戦災免れ現存。

１８）赤穂浪士大高源吾句碑

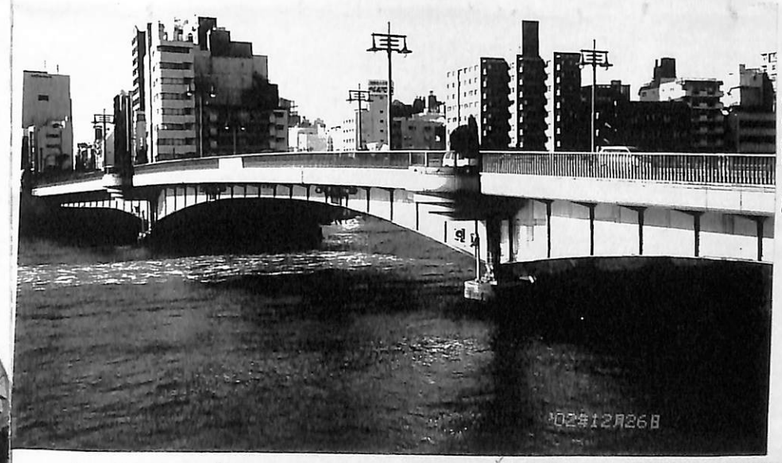
①　「日の恩や　忽ちくだく　厚氷」源吾は宝井其角の弟子で俳諧に通ずる。
講談では、すす竹売りの源吾が其角に「明日待たれる　宝船」を予告。
②　回向院への立入りを拒否された赤穂浪士ら最初の休憩地。
明けた15日は参勤諸大名の総登城日、混乱をさけ永代橋から泉岳寺めざす。

１９）隅田川と両国橋

①　隅田川＝はじめ江戸と武蔵をわけた。６～８月川開き。江戸市民が夕涼み、船遊び、花火楽しむ。
②　両国橋＝明暦大火後の万治２年架橋。江戸時代は50m下流に架けられていた。
③　両国の花火＝江戸中期享保16年、飢饉と疫病コロリ犠牲者の供養と悪病退散が目的。
橋を挟んで玉屋と鍵屋が船から打上げた。昭和36年一旦中止、53年上流で再開。

２０）回向院（諸宗山無縁寺）

①死者10万人を数えた明暦大火犠牲者供養のため創建。その後無縁仏、天災、刑死者など不幸な人たちを埋葬した。本堂に銅造阿彌陀如来座像。
②力塚＝昭和11年、相撲協会が歴代年寄慰霊、相撲道高揚のため建立。玉垣に当時の人気力士名刻む。
③明暦大火、水難事故、ペット塚など供養塔が多い。
④鼠小僧次郎吉の墓＝江戸後期の大名屋敷専門盗賊。盗んだ小判を貧しい人たちに与えた話は講談だけ。墓石を欠いて持つと勝負運が強いという、希望者はチャレンジしてください。
⑤山東京伝、京山の墓＝京伝は江戸後期の戯作者兼浮世絵師。黄表紙、洒落本作家としてベストセラーを続けるが寛政の禁令に触れ晩年は考証随筆に転じた。



→回向院

↑両国橋

→大高源吾句碑

↑ももんじや

→わずみ小僧の墓

２１）勧進相撲、初代両国国技館跡（シティコア）

①天保４年から明治42年まで小屋掛け晴天10日間勧進相撲定場所。谷風、雷電ら活躍。
②明治42年アーチ型ドーム国技館完成、晴雨関係なく開催、のち15日間に。敗戦後米軍に接収され、国技館を蔵前に移した。双葉山ら活躍。

２２）本所松坂町碑、土屋主税邸跡

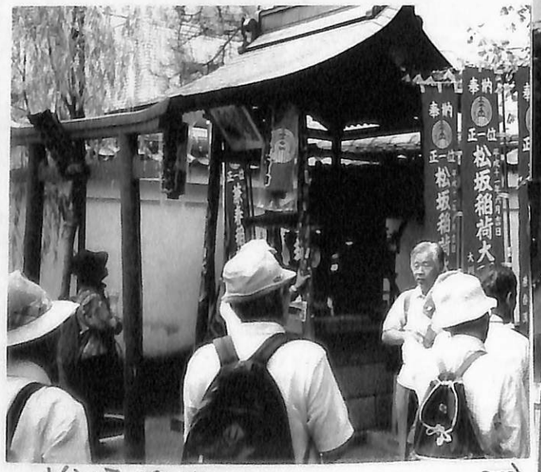
①松坂町碑＝昭和はじめの地名変更で松坂町消える。町会の記念碑も戦災跡生々しい。
②旗本３千石土屋家＝久留里土屋２万石の後裔。３代直樹が御家騒動改易、達直が旗本で再興。赤穂浪士討ち入りのとき、灯を付けて支援。

２３）吉良上野介邸跡

①刃傷事件後の元禄14年９月、幕命で大手町呉服橋屋敷から旗本松平登之助邸跡へ移転。
討ち入り後の16年３月、上野介の嗣子義周改易、信濃高島城配流のため没収。町家になる。
吉良邸敷地面積２,557坪、75間×35間の長方形。およそ１％を松坂町公園として保存。
②元禄15年12月14日（新暦16年１月30日、正確には31日午前４時ころ）赤穂浪士47士討ち入り。
表門（長屋門）＝内蔵介ら24名。山鹿流陣太鼓なし。はしご掛けて入り門外す。
裏門（棟門）＝息子大石主税ら23名。門扉を叩き割る。
切込み隊＝片岡源五右衛門、堀部安兵衛、赤垣源蔵ら突入。
③吉良方戦闘要員＝当直者22名、合計80～１00名。
数こそ劣るが報復に燃える赤穂浪士の意気込みが圧倒。手向かう敵をなぎ倒して上野介めざす。
上野介＝炭部屋に潜むが間十次郎が槍、武林唯七が太刀で切り付け即死。
吉良方被害＝死者17名、負傷24名（異説あり）、赤穂方は軽傷だけ。周到な準備で圧勝。
明け六つ（午前６時ころ）、主君浅野内匠頭眠る泉岳寺めざす。

本所松坂町

47士の図



松坂稲荷

吉良邸→

２４）本所二つ目相生町２丁目前原伊助長屋跡

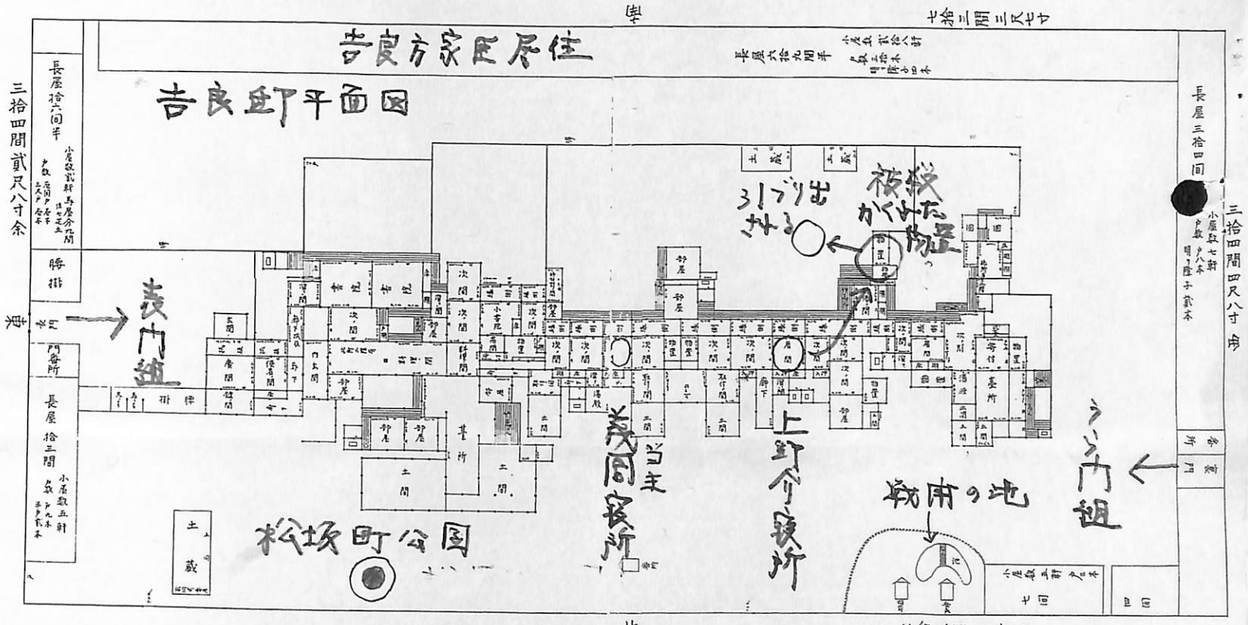
①こんな近くに浪士隠れ家。火事の時屋根から吉良邸を覗く。討ち入りの日第１次集合場所の一つに。
前原伊助＝米屋五兵衛　　神崎与五郎＝小豆屋善兵衛、美作屋善兵衛
倉橋伝助＝倉橋十左衛門、米屋手代
②この先塩原橋に塩原太助住居跡　　③馬車道

２５）勝海舟生誕の地

幕末の剣客＝旗本１千石男谷精一郎邸跡。御家人41俵の小身に生まれた勝は父が居候を決め込んだ実家男谷家に生まれ育った。

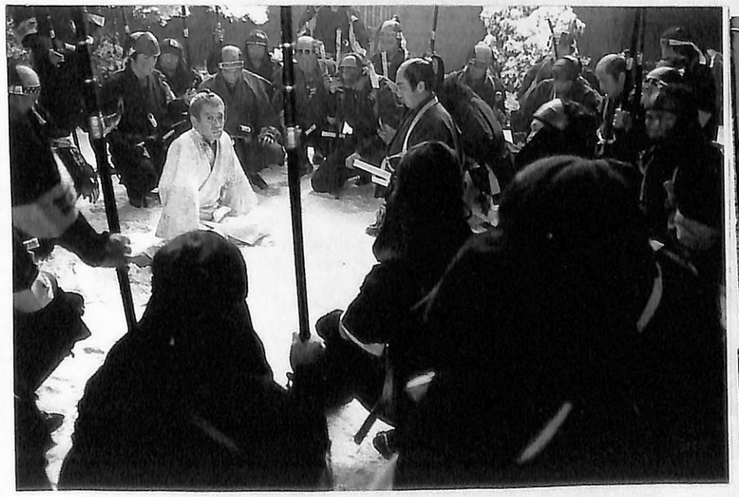
.２６）芥川龍之助住居跡

①「羅生門」を残した明治の文豪。京橋の生まれ、生後７か月から18年間、ここ兄の家で養育、両国小学校、中学校に学んだ。作品に本所を舞台にしたものも多い。
②昭和２年、激しい時代変革のなかに思想、芸術上の動揺から自殺。芥川賞として再生。



表門組（23名）
堀部安兵衛
吉田忠左衛門
不破数右衛門
前原伊助
小野寺十内
大石瀬左衛門
礒貝十郎左衛門
間喜兵衛
杉野十平次
赤埴源蔵
菅谷半之丞
間瀬孫九郎
三村次郎左衛門
潮田又之丞
茅野和助
中村勘助
木村岡右衛門
倉橋伝助
間新六
奥田貞右衛門
村松三太夫
千馬三郎兵衛

裏門組（24名）
大石内蔵助
堀部弥兵衛
原惣右衛門
大高源五
片岡源五右衛門
神崎与五郎
岡野金右衛門
矢頭右衛門七
奥田孫太夫
早水藤左衛門
岡嶋八十右衛門
富森助右衛門
武林唯七
貝賀弥左衛門
間重治郎
吉田沢右衛門
近松勘六
勝田新左衛門
小野寺幸右衛門
間瀬久太夫
矢田五郎右衛門
横川勘平
村松喜兵衛
（岡島忠嗣）

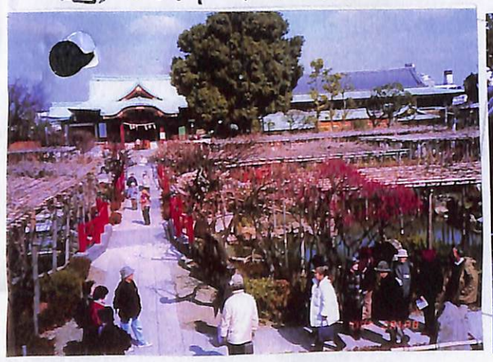

「元禄繚乱」の討入りシーン

勝生誕の地

亀戸天神 ↑↓↘

旧安田庭園 ↗→

亀戸銭座跡 ↑



徳之山稲荷 ↑

城と史蹟を歩く会　第１９回「亀戸天神と両国周辺を歩く」
ALBUM　　平成１５年2月１９日

主要コース
亀戸駅、普門院、亀戸天神、明治近代工業の地、亀戸銭座、横十間川、天神橋、精工舎跡、徳之山神社、横網公園、旧安田庭園（昼食）、江戸東京博物館、両国国技館、相撲部屋、両国橋東詰広小路、赤穂浪士大高源吾句碑、隅田川、回向院、初代国技館跡、本所松坂町碑、吉良邸公園、勝海舟生誕の地、芥川龍之介住居跡、両国駅

参加者　５１名（あいうえお順＝敬称略）
石井洋子、石原志津子、板垣てる、板倉　満、稲葉ミツ子、猪野春枝、今井勝昭、今井さち子、今井典夫、岩村ユウ、大岩勝男、大谷安弘、荻田恵子、小北絢士、小倉すみ、小野芳樹、加藤幸子、金子昭夫、金子幸枝、桑原絹枝、小島政弘、佐倉光子、白土貞子、渋木奎吾、鈴木クニ子、鈴木満、高沢　毅、高城正雄、高城富子、竹上　茂、田隅竜二、千葉範子、富永利克、富永玲子、長島英子、中島和枝、中村節子、藤田康男、堀口妙子、堀口敏江、松川綾子、吉水正子、柳沼房子、吉池一彦、吉池町子、渡辺清枝。山岸弘明、小出惣治、高沢恒子、鷲津寛子、藪本テイ子。

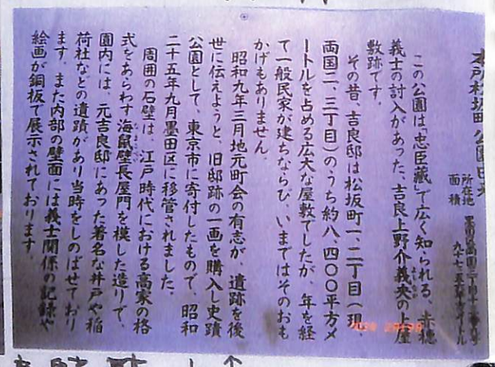
お知らせ
①４月１４日の第２１回「高遠城と諏訪高島城、信濃路の城と桜バスツアー」は受け付け即日満席となりました。ご協力ありがとうございました。
②次回は３月１５日「古河城と小山城を歩く」ですが、ＪＲ京葉線のダイヤ改定のため、先にお配りした「平成１５年前半のスケジュール」の八幡宿駅、上野駅の乗車時間を変更いたしましたのでご注意ください。
八幡宿７時１４分（京葉快速前の方）東京８時０３分着、山手線
上野８時５４分（⑤番線東北本線１両目）小山１０時０８分着、改札前集合、開会式（予告編にも記載しました）
問い合わせ先＝城と史跡を歩く会　山岸０４３６－４２－２２３７

忠永石 ← とりつく

→ 松坂町碑

普門院 ↑↗

横網町公園 →



本所松坂町公園由来

所在地　墨田区横網一丁目十番の九
面積　約二万四千平方メートル

この公園は、忠臣蔵で広く知られる、赤穂義士の討入があった、吉良上野介義央の上屋敷跡です。

その昔、吉良邸は松坂町一二丁目（現、両国二、三丁目）のうち約八、四〇〇平方メートルを占める広大な屋敷でしたが、年を経て一般民家が建ちならび、いまではそのおもかげもありません。

昭和九年三月地元町会の有志が、遺跡を後世に伝えようと、旧邸跡の一画を購入し史蹟公園として、東京市に寄付したもので、昭和二十五年九月墨田区に移管されました。

周囲の石壁は、江戸時代における高家の格式をあらわす海鼠壁長屋門を模した造りで、園内には、元吉良邸にあった著名な井戸や稲荷社などの遺跡があり当時をしのばせております。また内部の壁面には義士関係の記録や絵画が銅板で展示されております。

吉良町跡 ↓↑